

天 恍 星

この星は人生にたとえるなら青少年の時代です。人間は、この時代にこそ人生観を形成し、それがそれ以後の人生を支配すると云っても過言ではないでしょう。

この時代に入れば、人間は大なり小なり社会と自分自身との接点を探し求めようとするのです。ときには社会への反抗を試みたり、両親に対して反発心をおこしたり、それでうて何らかを学び取り環境との和合を計ろうするのです。まさに「模索」によって現される迷いの多い星世界なのです。

また青少年時代特有の「夢」「ロマン」「恋」「非常識」などの意味合いがありますが、天恍星にはたんに青少年とのみ考えないで、人間の「巣立ち」の時としています。それは同時に生地生家を離れる星ともされています。

精神的な試練は他のどの星よりも大きく、また孤独を暗示されている星でもあります。

さみしがりやの性情を常に明るさときらびやかさでかくしているのです。
そのことが「暗中の明」をつくりだし、人をたのしませたり、人に明るさをもたらず星でもあるのです。

自意識は相当に強く、小なりといえども大に屈しない気風をもっています。
夢とロマンに支えられ流浪の旅を続ける星世界なのです。

天 恍 星 中 殺

この天恍星が**中殺**されるということは、青少年期が**大運天中殺**と同じことになります。

生地生家を離れるという意味を持つ天恍星が**宿命**中殺****に遭いますと、天恍星が持っている星の意味合いが変形してきます。それは生涯を通じて住居というものが非常に定まりにくい…という特色に変化します。(もともと**流浪の旅を続ける**という意味を持つ**天恍星世界**が、**宿命**中殺****で異常現象が現われ、ますます**流浪性**が強くなるわけです。具体的には**不動産とか住居運とか、衣食住のうち、住の運が非常に掴みにくい…**という意味になって来るのです。それだけに**大変に引っ越しが多い人**という形にもなるのです)

さらに、この星が青少年期の星だけに、その青少年期が一種、空欄状態になるということは、たとえば、精神的な苦勞に強いというこの星の特色にも異常現象があらわれて変形し、非行化しやすいとか、早く親もとを離れやすいという特色になるのです。(進学や就職といった**人生のスタート地点でつまづき、仲間や同級生より一歩出遅れた人生を歩みがち**です。たとえば、自分が進学したい学校や希望する勤め先があっても不合格になり、やむなく別のところを選んで入ったとしても、まったく自分の意にそわず、自分の意思に反した学校や勤め先だけに、途中でやめたりするのです。また仕事を転々と変えていくのも**中殺**された人の特徴です)

また、この星の**中殺者**は、幼少期から異性に強い関心を示すタイプの子供が多く早熟振りを発揮します。

この傾向は成人しても変わらず、ややもすると異性にだらしない人とみられがちです。特に十代の頃は非行化しやすく、学校や近所の人達からの評判は必ずしも良くなかったはずで

す。
(人によっては家出を繰り返し、両親や担任の先生達を悩ませることもあります)

しかし、成人後はむしろ真面目な仕事振りを見せる様になるので、周囲の人からも認められるでしょう。